

## 平成28年度学校評価(職員自己評価)結果考察(平成28年7月との比較)

### 1 主な指標の変化

- (1) 学力向上に関する種々の取組(朝学習、補充学習)の成果により、学級の児童に学力(確かな学力)が定着したと考える職員が77ポイントから80ポイントに増えた。
- (2) 職員研修(学力向上、外国語等)の成果が児童に変容をもたらしたと考える職員が63ポイントから83ポイントに増えた。
- (3) また、研修による教師自身の向上があったと考える職員が81ポイントから88ポイントに増えた。
- (4) 委員会活動やクラブ活動の指導を通して、望ましい集団活動ができたと考える職員が85ポイントから93ポイントに増えた。
- (5) 福祉体験活動(校内校外)の計画や内容が適切に実施されたと考える職員が77ポイントから83ポイントに増えた。
- (6) 互いを支える人間関係が教育活動の中に育っていると考える職員が81ポイントから87ポイントに増えた。
- (7) 体力向上の取組(スポーツタイム、マッスルタイム、補習(水泳、鉄棒、跳び箱))により、児童の体力が向上したと考える職員が83ポイントから92ポイントに増えた。
- (8) 本校は休み時間・体育の時間など体力向上のための工夫や活動を展開(指導)していると考える職員が87ポイントから96ポイントに増えた。
- (9) 学校応援団を有効に迎え入れ、役立てていると考える職員が87ポイントから91ポイントに増えた。

### 2 学校教育目標の具現化に向けた指標の変化

- (1) 学校教育目標を理解し、教科等、学校生活に生かしたと考える職員が88ポイントから92ポイントに増えた。
- (2) 学校教育目標を学年や学級経営の中に生かしたと考える職員が90ポイントから95ポイントに増えた。

### 3 学校研究課題の具現化に向けた指標の変化

- (1) 校内研修を推進していく中で、学校研究課題・研修計画は適切だったと考える職員が81ポイントから85ポイントに増えた。
- (2) 学校研究課題に十分取り組んだと考える職員が76ポイントから80ポイントに増えた。

### 4 次年度に向けての展望

- (1) 上気1-(1)では、ポイントは上昇しているが、更に向上させる余地が残されている。その方策として、学習習慣の育成と定着にこれまで以上に取り組む。特に、家庭学習や読書の習慣化に向け、学校としての共通課題を課す。
- (2) 学力向上にこれまで以上に力を入れて取り組む。特に、①進んで学習に取り組むこと、②自分の考えを書くこと、③自分の意見を伝えることに重点を置く。
- (3) これまで以上に家庭・地域社会との円滑な連携ができるようにする。特に、教育活動の積極的な公開を図ることに重点を置き、状況に応じて協力が得られるようにする。